

成田市都市計画審議会 会議概要

1 開催日時

平成28年5月23日（月） 午後1時30分から3時まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 議会棟3階 執行部控室

3 出席者

(委員)

宗藤委員、中村委員、岡野委員、海保委員、秋山委員、雨宮委員、鬼澤委員、松田委員、山岸委員、平山委員（山本委員代理）、茂手木委員、中佐藤委員
(順不同)

(事務局)

齊藤都市部長、藤崎都市計画課長、堀越都市計画課長補佐、腰川係長、飯嶋主査、池田主任主事

4 議題

(1) 会長の選出及び会長職務代理者の指名

(2) 議事

報告第1号 次期都市計画マスタープラン（基本方針案）に係る
パブリックコメントの実施について〔報告〕

報告第2号 下総大栄都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
の変更に係る市町村原案の縦覧について〔報告〕

5 議事(要旨)

「会長の選出及び会長職務代理者の指名について」は、宗藤委員が推薦を受け、全会一致にて会長に選出された。会長の選出後、宗藤会長より鎌田委員が会長職務代理者に指名された。

報告第1号「次期都市計画マスタープラン（基本方針案）に係るパブリックコメントの実施について」では、7月に実施を予定しているパブリックコメント案について報告を行った。

報告第2号「下総大栄都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更に係る市町村原案の縦覧について」では、5月27日より縦覧に供する原案について報告を行った。

(質疑応答)

報告第1号 次期都市計画マスタープラン(基本方針案)に係るパブリックコメント
の実施について〔報告〕

質問(委員)

コンパクトシティなど、集約型のまちづくりへの転換を主要な課題と考えているようだが、都市部と農村部の格差が拡大する可能性があるのではないか。

回答(事務局)

次期都市計画マスタープランでは「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」という表現をしておりますが、この考えは、今までの市街地周辺部において拡散してきた住宅地を抑制しつつ、既存の良好な都市基盤を生かし、密度の高い市街地の形成を目指すものでございます。

また、ネットワークという表現でございますが、成田には、下総・大栄地域も含め従来からの拠点というべき場所がございます。それらをこのマスタープランにおいて「都市拠点」、「生活拠点」として位置づけ、交通ネットワークで結び、拠点同士の不足する機能を相互に補完するというものです。

これにより地域に住む方々が、それぞれの地域で継続して生活していただけるような環境を確保し、人口の維持を目指すものです。

質問(委員)

利便性の高いところに人が集まっているという現状があるなかで、さらに構想として集約型のまちづくりの方向性を示せば、自然に人口減少が進む地域は、一層その傾向が進むのではないか。

回答(事務局)

旧成田市域は、市街化区域・市街化調整区域といった区域区分が設定されておりますが、開発行為を抑制している市街化調整区域では、どうしても新たな住宅地が発展しにくい点がございます。

人口減少の課題については認識しており、次期都市計画マスタープランでもそのことを全く無視しているわけではございませんので、ご理解いただければと思います。

報告第2号 下総大栄都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更に
係る市町村原案の縦覧について〔報告〕

質問(委員)

これまで下総都市計画、大栄都市計画とそれぞれ別の区域であったものを、統合するということだがその経緯について伺いたい。

回 答（事務局）

成田国際空港の機能拡充や圏央道の整備に伴う産業機能の形成、あるいは学校の統廃合による土地の活用や地域間の連携、人口減少への対応など、両地区とも共通のまちづくりの課題があるため、一つの都市計画区域に統合し、一体的なまちづくりを進めていきたいという考えでございます。

質 問（委 員）

下総大栄都市計画区域の方針では、人口増を目標とするのか、それとも人口の維持を目標とするのか。

回 答（事務局）

都市計画の考え方としては、人口の維持を目指しております。

それぞれの拠点となる地域へ都市機能を集約し、交通利便性を高めることによって、地域外への人口流出を防ぐような施策を進めていくという考え方でございます。

質 問（委 員）

下総地区の拠点に関して「下総支所周辺」という表現ではなく、「滑河駅周辺」と表現した理由について。

二つの都市計画を統合することから、様々な公共施設等も統合していく考えがあつてそのような表現としたのか。

回 答（事務局）

「滑河駅周辺」という表現については、次期都市計画マスタープランの将来都市構造の表現とも整合を図っておりますが、支所の周辺を含め、公共交通の根幹となる駅を中心に生活の利便性を高めていく地域としております。

具体的に公共施設の統合等を目指した表現ではございませんが、今後各地域でどのような施設が必要かという検討については、次期都市計画マスタープランの地域別構想のなかでも検討してまいりたいと考えております。

質 問（委 員）

公共施設等の集積というのは、点在している機能を一か所にまとめるような考えという解釈で良いのか。

回 答（事務局）

生活を支える施設については、アクセス性を含めた利便性が考慮される必要があるかと思ひます。

分散していると、場所によってはアクセスが非常に難しいということがありま

すので、アクセス性の向上という観点から集約化が必要な場合もあろうかと考えております。

質 問（委 員）

コミュニティバスやオンデマンド交通など公共交通の検討を含めて、アクセスしやすいところを集めるということか。

回 答（事務局）

今年度より、次期都市計画マスタープランと併せて立地適正化計画を策定してまいります。その検討を進めていくなかでも、施設の誘導と併せた公共交通によるアクセスの強化などの検討が必要であると認識しております。

質 問（委 員）

下総大栄都市計画区域で区域区分（市街化区域・市街化調整区域）を定めない理由は。

回 答（事務局）

成田都市計画区域については、首都圏近郊整備地帯に位置しており、法律によって区域区分の設定が義務付けられていることから、市街化区域・市街化調整区域の線引きを行っております。

しかし、下総大栄都市計画区域は、首都圏近郊整備地帯の外ということで、区域区分の設定の義務付けがないことなどから、非線引きの都市計画区域となっております。

質 問（委 員）

線引き（区域区分の設定）をした方が良いのではないかという考えがあるのか。

回 答（事務局）

線引きについては、いろいろな施策面で影響がでてくることであり、実際に取り組むということになれば大きなハードルがございますので、慎重に検討をする必要があるものと考えております。

質 問（委 員）

千葉県が示している都市計画見直しの基本方針では、県の人口は平成27年度以降減少と書いてあるが、次期都市計画マスタープランで示している推計では、なぜ平成42年まで増加しているのか。

回 答（事務局）

都市計画見直しの基本方針は、千葉県全体の傾向として示しております。

次期都市計画マスタープランで示している推計は、成田市の人口動向を示したものでございますので差異がございます。

質 問（委 員）

今後の推計では年少人口、生産年齢人口は減少しているが、老年人口が増加している。

これは推移の中で生産年齢人口から老年人口と移り変わっている層があるためだと思うが、それを踏まえても全体として人口が増加しているということは、人口が流入しているというように捉えて良いのか。

回 答（事務局）

成田市の特性上そのような傾向が見られるものと認識しております。

6 傍聴者

2名

7 次回開催日時（予定）

平成28年11月下旬